

## ■鈴鹿警察（交通安全）を取り巻く環境（現状）

- ・鈴鹿市内の高齢者の交通事故は比較的多い。2022年5月より運転技能検査が改正され、75歳以上で一定の違反歴がある方は、運転技能検査に合格しなければ運転免許証の更新を受けることができなくなり、高齢者の事故防止につながってきているのではないかと懸念されている。一方、運転能力の低下がみられる方は免許証を返納いただいているが、三重県のような田舎では交通機関が充実していないため、自動車が運転できなくなると不便になる方もいる。また、免許返納により、外出する機会が減ることなどから老け込むという話も耳にすることがある。東京都の池袋の事故がメディアで取り上げられた時は、免許証を返納される方が増加したが、最近では右肩上がりが増加しているという訳でもない。また、ご家族から免許証返納についてご相談を受けることもあるが、当事者本人が納得することが必要であり、個人の権利のことであるため、回答が難しいというのが現状。
- ・集団登下校は当然していただいた方がよい。小学1年生と6年では安全性が非常に異なるので、高学年の子が下の子を見てもらえればより安全である。防犯的な観点においても、1人で歩くよりも集団の方が、不審者が声を掛けることは難しく安全である。

## ■鈴鹿警察（防犯）を取り巻く環境（現状）

- ・行方不明者の発生は、認知症の方のみならず、成人、子供、外国人研修生など様々であり、発生件数に例年大きな変動はない。鈴鹿署は、県内の18警察署の中で一番行方不明者の発生件数が多いが、管轄エリア内の人口数に比例して件数は増加するため、致し方ないところではある。
- ・近年は特殊詐欺の被害が増加しており、2022年においても現時点で21件と県下18警察署の中で一番発生が多い状況。事案としては、Google Playカードなどのギフトカードを用いた架空請求や、還付金詐欺などがみられる。鈴鹿市内は60～80代の女性が被害を受けることが多い。
- ・昨今のDV被害や児童虐待は、新型コロナによる巣ごもりで増加したということを経済等でも耳にすることがあると思うが、その様な犯罪がメディアなどで取り上げられることにより、世間の警察に相談するという認識が高まったことも増加している要因ではないか。
- ・鈴鹿市内に居住する外国人が関与する犯罪も発生しているが、特化して増加している訳ではない。
- ・鈴鹿市内でもSNSを巡る犯罪、児童ポルノに関する犯罪も発生している。
- ・体感治安数については、2002年にピークを迎えたが犯罪認知件数は減少傾向である。鈴鹿署管内も昨年から70件ほど減少している。
- ・今年は10月以降空き巣被害が増加している。特に、これから年末年始を迎えるにあたり、自宅を留守にする方が多くなるので警戒を強めていく必要がある。
- ・鈴鹿署管内は、犯罪発生件数が10年連続で三重県下で一番多く、ほとんどの犯罪項目において三重県下で一番多い。
- ・便利で人が多く集まる場所は、それだけ犯罪の事案は多くなるというのが一般的であり、平田エリアが鈴鹿署管内では件数が多い。

## ■鈴鹿市の交通安全における課題

- ・道路上の標識、標示が劣化してきており、規制効力のない所が増えてきている。予算の関係でそれら全てを修復することは難しいものの、ここ1～2年で予算が認められ徐々に整備は進んできた。ただし、まだまだ足りないのが課題である。
- ・防犯や交通事故について市民に伝える手段として、イベントなどの活動をメディアに取り上げていただくことは一番効率が良い。メディアに取り上げていただけるような目新しいアイデアがあればいいが、すぐに思いつくものでもなく地道に取り組んでいくしかない。死亡事故の発生後間もなく、近隣のスーパーなどで啓発物品やチラシを配布しているが、手に取ってもらえるのは数十人から数百人程度であり、周知できるのは限定的である。メディアで取り上げられるとより多くの方に知っていただける。これには記者の方とのつながりを作っておくことも必要である。最近では、地域安全運動の出発式にサッカーの「鈴鹿ポイントゲッターズ」や、自転車盗難防止啓発活動のイベントにラグビーの「三重ホンダヒート」など、鈴鹿市内のプロスポーツチームに来ていただくことで注目を集め、様々なメディアに取り上げていただけた。
- ・特殊詐欺が多いので、特殊詐欺に対する対策は継続的に実施していかなければならない。

### ■鈴鹿市の防犯における課題

- ・自動通話録音警告機などハード面の対策が必要である。
- ・捜査活動をしていても、近隣に住んでいる方々の横のつながりが減っているのは感じる。
- ・交通安全の面でも言えることであるが、普段からの意識づけが重要である。
- ・自主防犯団体の方々においては、仕事を勇退した方が多く、高齢化が進んでいると聞いている。若い年代の方を増やしたいと考えているが、実際勤めながらご協力いただくことは難しい。

### ■交通事故を減らす、防ぐために必要なこと及び取組状況

- ・鈴鹿市の場合、交通安全教室は鈴鹿市（行政）で取り組んでいただいている。大きな市町であれば、警察官が市役所へ出向して取り組んでいる事例もある。
- ・「まもってくれてありがとう運動」の取組をしている。信号機のない横断歩道で、歩行者である子供たちが停止してくれた車に対して、お辞儀や感謝の気持ちを示す取組である。この取組によって、気持ち良く一時停止してくれる運転手が増加するよう促進している。その様な教育を各小学校などで実施し、モデル校として指定している。JAFが実施した「信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況全国調査」によると、三重県は2019年に全国でワースト1位であったが、2020年は14位まで浮上した。大人に対しては、「ハンドサインキャンペーン」を実施している。子供たちは手を挙げて横断歩道を渡るが、大人は渡るかどうか分からないことが多いため、少し手を挙げるなどのハンドサインを促す活動を昨年から実施している。
- ・交通事故を抑止するため、市民の方が普段から意識づけをしていただくことが重要である。普段から「いつ事故に遭うか分からない」、「運転することは危険なこと」と思っただけでいただくことが大切である。交通事故はハード面や取り締まりを強化するだけでは抑止するのは難しいため、当事者である運転手本人が意識を高めていただく必要がある。

### ■犯罪を減らす、防ぐために必要なこと及び取組状況

- ・特殊詐欺の対策として、独居の方を対象に巡回して広報する活動を実施している。テレビや新聞、

情報誌などを見ない・読まない方もいるため、警察官が直接伺って啓発するようにしている。地域の高齢者と関わる方々に向けて、高齢者に注意を促してもらえるよう協力を依頼している。また、知らない電話番号からの電話に出ないことや、自動録音機能を付けることを促している。

- ・警察だけでなく自主防犯団体にも協力いただき対応している。

#### ■鈴鹿警察（交通安全）を取り巻く環境の未来予想（2031年）

- ・人身事故のうち約4割は追突事故である。衝突軽減ブレーキが備え付けられた自動車が増えれば、この割合は減少する可能性が高い。また、被害者のケガの軽減にもつながり、人身事故から物損事故になる事案もあるかもしれない。

#### ■鈴鹿警察（防犯）を取り巻く環境の未来予想（2031年）

- ・ここ最近特殊詐欺が増加しているため、今後特に注力していかなければいけない。いつ、どのような犯罪が発生するかは分からないため、幅広く対応していく必要がある。また、大きな事件が発生した際には、大々的に周知させることで、更なる犯罪の防止に努める必要がある。